

理想の図書館

C1240492 小野寺洸大

私は小さい頃から本が好きでよく市立図書館に訪れていた。その図書館は、常にエアコンが効いており、夏場などの蒸し暑い日に本を読むにはとても優れている施設であった。しかし1つ欠点がある。それは個室が無いことだ。だれでも簡単に利用できてしまうからこそ、大声で話す人やお菓子を食べたりする人が出てしまう。「飲食禁止」「私語禁止」とは書かれているが一部の人にはやはり伝わりにくいのであるのが現実だ。だからこそ私は、だれでも快適に利用でき、尚且つ完全個室防音部屋がある図書館があるとこれまで以上に利用したくなるのではないかと考える。

初めに、ユーザーのニーズについて考えてみる。顕在的では、完全個室防音部屋が必要である。潜在的では、1.静かな空間で本を読みたい、2.睡眠を挟みたい、3.私物を目の届く場所で保管したい、などが上げられる。1.での静かな空間で本を読みたいでは、前述した通り大声で話す人やお菓子を食べる人がいるなどの騒音問題がある事だ。これは多くの人が共感出来る問題であるだろう。図書館は基本的に、静かに本を読まなければならない。少しの音が聞こえるだけで集中力が削がれてしまう。2.での睡眠を挟みたいでは、周りに迷惑をかけずに休憩したいことが時たまにあるだろう。本を読んでいると眠くなる。さらに、その時に発生する寝息やいびき、寝言などを聞

かれずに静かに寝れる環境が必要になってくる。3.での私物を目の届く場所で保管したいでは、誰しもが1度は考えたことがあるだろう。どこかに預ける手もあるが、手の届く場所にあるとより安心する。以上のことから完全個室防音部屋が必要だと考える。

コンセプトは「ノイズキャンセリング」で、これは周囲の雑音を打ち消して低減させると言った意味があるので設定することにした。プロダクトは完全防音個室を設けることで周囲の雑音を無くし、夏冬度の季節でも快適に過ごせる空間として使え、またベッドや糖類などを置くことで飽きずに利用出来る。効果としては、周りの目を気にせず安心して本を読むことができ、英語や古文・漢文などの単語、歴史などの暗記物などのインプット系の学習にも集中して取り組むことが出来ることである。また、ベッドや糖類などによって、睡眠休憩ができる。そして糖類などは、体のエネルギー源になるだけではなく神経物質に働きかけることでリラックスさせる効果がある事が分かっている。

以上のことから、だれでも快適に利用でき、尚且つ尚且つ完全個室防音部屋がある図書館があるとこれまで以上に利用したくなるのではないかと考える。

